

ACDSee Pro を使って RAW 画像を素早く処理

RAW ファイルとは？

RAW ファイルは、フィルムのネガティブのデジタル版と解釈することができます。RAW（生の）と呼ばれる理由は、カメラで撮影したすべてのセンサー データが含まれているためです。このセンサー データは一切変更されないため、RAW ファイルはフィルムのネガティブと相似しています。そのため、表示する前に画像ファイルに現像するプロセスが必要です。プロフェッショナル用また中級デジタルカメラのほとんどが、RAW 画像ファイルの作成機能を備えています。

写真家が RAW ファイルを好む理由は？

RAW ファイルには次のような利点があります：

- ・ 通常の 8 ビットに対して 12 ビットとダイナミック レンジが広いので、画像の暗い部分の詳細をより細かくコントロールすることができます。
- ・ すべてのカメラ センサー データはもちろん、撮影時に選択されたカメラ設定データも含んでいるため、露出やトーンバndsの調整が行いやすくなります。
- ・ 画像撮影時のカメラ設定が適切でなかったとしても、ホワイトバランスを修正することが可能です。
- ・ シャープネスとノイズ除去を最適化することができます。

RAW 処理と通常の画像編集との違いは何？

通常の編集とは異なり、RAW 処理は幾つかのステージで行われます。ACDSee Pro では、RAW ファイルを前処理してから、ブラウザまたはビューアで表示します。（オリジナルの RAW ファイルにユーザーの処理設定を適用したい場合には、前処理の機能をオフにします。）ユーザーの処理設定を適用したい RAW ファイルを選択したら、[RAW 処理編集パネル] を利用して、露出、カラー、シャープネス、ノイズをカスタム設定します。[名前を付けて保存] をクリックして、選択された設定で RAW ファイルを処理し、JPEG または TIFF フォーマットで保存します。

その後、編集モードで JPEG または TIFF ファイルを開き、シャドウ/ハイライト、カラー キャストなどを修正します。この編集ステージでは、既定値またはユーザーの選択したカスタム設定値で既に前処理された画像を基準に編集を行っている、という点に注意してください。

ACDSee Pro では、ユーザーが RAW ファイルを編集する必要はありません。オリジナルの RAW ファイルは、画像データを保持するために、意図的に変更されない仕組みになっています。そして RAW ファイルの処理設定は ACDSee Pro のデータベースに保存されます。そのため、RAW ファイルを開くたびに、保存されている設定が自動的に適用されます。このシステムの利点は、同一の RAW ファイルに異なる設定を適用できることで、異なる効果を生み出したり、処理設定を変更したりすることができます。

ACDSee Pro の RAW 処理機能と Adobe Camera Raw 機能の違いは？

2 つの異なる RAW コンバータ(ソフトウェア アプリケーション)で同一の画像を比較するという事は、全く別の画像を比較しようとしていることに似ています。これは、各 RAW コンバータが独自のパラメータを使用して画像を処理するためです。そのため、画像を別のコンバータ間で比較する前に、異なるコンバータ間の設定が一致するように調整しなければなりません。

以下の手順は ACDSee Pro と Adobe Camera Raw を例に挙げて、これらの設定を調整する方法を示していますが、あらゆる RAW コンバータで、同様に設定を調整することができます。

ACDSee Pro と Adobe Camera Raw の設定を調整するには：

1. 両方のコンバータの既定の前処理設定を、すべてオフに設定する

まず、画像を表示するための前処理設定をすべてオフにして、画像を RAW (生の) 状態に戻します。次に、両方のコンバータで同じになるように、露出の設定を細かく調整します。

ACDSee Pro では、RAW ファイルを選択してから、[ツール] メニューの [RAW 画像処理] をクリックし、RAW 処理の編集パネルを表示します。[露出] タブで [露出の前処理] チェックボックスをクリアに変更し、[リセット] をクリックして ACDSee Pro がその RAW 画像を表示するために使用した設定値をクリアします。ミッドポイント(ガンマ値)を 2.2 に調整すると、Adobe Camera Raw が使用する未処理の明るさに近くなります。

Adobe Camera Raw では、自動調整をオフにするショートカットキー [Ctrl] + [U] を押します。[調整] タブで、[露出]、[シャドウ]、[明るさ]、[コントラスト] のスライダをドラッグして 0 に設定します。[カーブ] タブを選択し、[トーン カーブ] ドロップダウン リストから、Linear を選択します。

2. 両方のコンバータに、同一のホワイトバランス オプションを設定する

第 2 の手順として、両方のコンバータで同一のホワイトバランス設定が使用されているかを確認します。ホワイトバランスを調整する必要がある場合は、[ホワイトバランス オプション] から [カスタム] を選択します。両方のコンバータで同じ結果になるように [温度] と [ティント] のスライダを移動します。両方のコンバータで、[撮影時] のホワイトバランスが既定オプションとして設定されています。

ACDSee Pro では、RAW 処理編集パネルの [カラー] タブを選択します。画像上の任意の場所にカーソルを移動すると、カーソルがスポイトに変わります。画像内にある白またはグレーのオブジェクトをクリックし、[温度] と [ティント] のスライダを使ってホワイトバランスを設定します。

Adobe Camera Raw では、[調整] タブを選択します。スポイトを使って、ACDSee Pro で選択したのと同じの白またはグレーの領域を選択します。その後、[温度] と [ティント] スライダを使ってホワイトバランスを同じ値に設定します。

注意：ACDSee Pro のホワイトバランス プリセット (晴れ、曇り、影、タングステン、蛍光灯、フラッシュ) とそれぞれの温度とティント値は、現在 Adobe Camera Raw の設定値とは一致していません。両方のコンバータは同一の温度とティントの値を使用していますが、正確な結果を得るためには ACDSee Pro で細かい調整を行う必要があります。

3. 両方のコンバータに、同一のカラーマネージメントを設定する

第 3 の手順として、同一の入力と出力の色空間情報を使用することで、カラーマネージメントの設定を同一に設定します。一般に、Adobe RGB 1998 の色空間を使うと、両方のコンバータで上手く設定することができます。

ACDSee Pro では、RAW 処理編集パネルで [カラー] タブを選択し、[色空間を使用する] オプションを選択します。ドロップダウン リストから、例えば AdobeRGB1998.icc など、使用するプロファイルを選択します。

Adobe Camera Raw では、[ワークフロー オプションの表示] がチェックされていることを確認し、[空間] のドロップダウン リストから Adobe RGB (1998) を選択します。

これで、2 つのコンバータ間で、画像がとても類似して見えるようになります。RAW 画像を現像する際に使用されるレンダリング エンジンが異なるため、コンバータ間でわずかな色の違いに気が付くことがあるかもしれません。

ACDSee Pro で RAW 処理のワークフローを最適化する

RAW 画像プレビュー (RIP ファイル) を作成する

RIP ファイルを作成すると、RAW 画像の表示がスピードアップします。ブラウザで RAW ファイルを選択し、[データベース] メニューから [RAW 画像のプレビュー作成] をクリックします。RIP ファイルが作成され、キャッシュに保存されます。(異なるフォルダ間にある RAW ファイル用に RIP ファイルを作成したい場合には、[フォルダ] ペインを開き、RAW ファイルが含まれている各フォルダの横にあるチェックボックスをクリックします。RAW ファイルがブラウザで開かれます。ショートカット キー の [Ctrl] + [A] キーを押してすべてを選択してから、[データベース] メニューの [RAW 画像のプレビュー作成] を選択します。)

RAW 画像を処理する

画像を選択したら、[ツール] メニューから [RAW 画像処理] を選択します。[露出]、[カラー]、[詳細] タブを使用して、露出、ホワイトバランス、シャープネス、ノイズなどを調整します。RAW 処理編集パネルには統合されたコントロールが備わっていますので、1つのインターフェイス上でレベルやカーブを調整することができます。そのため、明るさやコントラストをフレキシブルにコントロールすることができます。また、特定の設定をプリセットとして保存し、他の画像に適用することも可能です。

別のファイル フォーマットで保存する

RAW 画像の処理が完了したら、JPEG または TIFF ファイルとして保存するか、新規設定で RIP ファイルを更新することができます。(RIP ファイルは、RAW 処理編集パネルで [完了] をクリックすると、自動的に更新されます。)

RAW 画像を一括処理する

RAW 画像の一括処理を使用して、何百という画像に一括してプリセットを適用することもできます。複数の RAW 画像ファイルを選択したら、[ツール] メニューから [RAW の一括処理] をクリックします。プリセットを選択してから [処理] をクリックすると、選択された RAW ファイルが素早く処理されます。

RIP キャッシュを削除する

RAW 画像を表示する必要がないけれども、アーカイブとして保存しなければならない場合には、RIP キャッシュを削除することができます。ブラウザで [ツール] メニューの [ACDSee オプション] から [RAW プレビュー] タブをクリックします。[キャッシュを空にする] ボタンをクリックした後、[OK] をクリックします。

アーカイブ

RAW ファイルとその処理設定は、個別に保存されます。そのため、RAW 画像を CD に書き込む前に、その RAW 画像用の処理設定をエクスポートする必要があります。ブラウザで、アーカイブ保存しようとしている RAW 画像ファイルを選択します。[データベース] メニューから、[エクスポート] そして [RPP ファイル] を選択します。データベースから選択されたファイル用の処理設定がエクスポートされ、RPP ファイルとして保存されます。画像ファイルと RPP ファイルを CD に書き込みます。